



長所と短所

この世の中は持ちつ持たれつ、人と人の協同生活によって、仕事がり立っている。暮らしが成り立っている。

この協同生活を円滑に進めるためには、いろいろの心くばりが必要だけれども、なかでも大事なことは、おたがいにまわりの人の長所と欠点を、素直な心でよく理解しておくということである。そしてその長所を、できかぎり発揮させてあげるように、またその短所をできるかぎり補ってあげるように、暖かい心で最善の心くばりをするということである。

神さまではないのだから、全知全能を人間に求めるのは愚の限りである。人に求めるほうも愚なら、いささかのうぬぼれにみずから心おこる姿も、また愚である。人を助けて己の仕事が成り立ち、また人に助けられて己の仕事が円滑に運んでいるのである。この理解と心くばりがなければ、百万の人も単につのつき合わせた鳥合の衆にすぎないであろう。

長所と短所と・・・それは人間のいわば一つの宿命である。その宿命を繁榮に結びつけるのも貧困に結びつけるのも、つまりはおたがいの心くばり一つにかかっているのではなからうか。

(PHP「道をひらく」より抜粋)

若い頃の自分は、相手の成功を妬んだり欠点を指摘したりしていたように思う。年齢とともに自分のできていないことを補ってくれていた家族や仲間、生徒のありがたさに気づいてきた。今回、詫間中学校に赴任してより一層みんなで補い合っていることへのありがたさを感じている。そんな中で毎日生活していると当たり前のように思えるのだが、これは当たり前ではない。先生方も生徒たちもお互いがお互いの長所や短所を知ることによって日々成長できている。心を配り、気を配り目配りをする中で日本一の中学校を目指しているのが詫間中学校だ。



詫間中学校の一員であることを常に意識し、残りの2学期を過ごしていきたい。(2学期終了まで51日)